

特許庁図書館



こんにちは、ギコンくんです。このコーナーでは、特許庁での気になるトピックを紹介しています。今回は、特許庁図書館にまつわる話をお届けします。



おや、ギコンくん。図書館で会うとは奇遇じゃのう。ギコンくんも何か調べ物かの？

「あっ、コレじいさん、こんにちは！ 実は、勉強になって面白くて、私が特許庁の公式マスコットキャラになれるような本を探していたんです。」

ほう、やや注文が多いが、なかなか勉強熱心じゃな。

「勉強熱心だなんて照れてしまいますよー。」

ほっほっほ。この特許庁の地下1階にある特許庁図書館については、第1回の「發明音頭をご存知ですか？」(特技懇262号)でも登場したが、今日はもう少し詳しい話をしようかのう。

「はい、聞かせて下さい！」

特許庁図書館は産業財産権に関する唯一の専門図書館として、内外国の産業財産権関係の資料、さらに、科学技術関係資料、一般行政資料やその他の図書・雑誌類を収集しており、図書については、和書33,574冊、洋書7,312冊、雑誌については、和雑誌915種、洋雑誌187種を所蔵している(平成26年2月現在)。

「DVDやビデオもありますね。パテッ!? これは『子ども霞が関見学デー』の日に上映される特許編『んちゃ! アラレのおしおき! アイデア泥棒をやっつけちゃえ!』と、商標編『がんばれ! コボちゃん牛乳』ではないですか!」
そうじゃ。ここにはCD、DVD、ビデオもあるんじゃ。良く見つけたのう。

また、この図書館には『高橋是清遺稿集』という貴重文献があつての。これは、今からちょうど80年前の昭和9年に、ワシのモデルで初代特許庁長官の高橋是清翁が所蔵していた数々の資料を特許庁へ寄贈したものなのじゃ。ふと見とらなつての。

「寄贈された資料にはどのようなものがあるのですか?」
良い質問じゃ。多くは条例や講演の草案など、当時の立法、行政に関わる公文書じゃ。大正12年に起きた関東大震災により、特許局図書館(当時)は所蔵していた資料・文献を一切消失してしまつての。高橋是清翁が寄贈したこれらの資料は我が国の産業財産権制度を知る上で非常に貴重な



高橋是清遺稿集(全7巻)

ものなのじゃ。図書館ではこの貴重な資料をマイクロフィルム化して閲覧用に提供してある。

「パテッ! そんな貴重なものがこの特許庁にあつたのですね! 全く知りませんでした。私も後で見せてもらおつと。」

他には、『工業所有権制度百周年記念文庫』といって、工業所有権参考資料センター(平成13年の省庁再編により廃止)から引き継いだ資料や、特許制度初期の特許公報もあるぞ。

「個人名が付けられた棚もありますが、この棚の図書は元職員の方から寄贈されたものですか?」

さようじゃ。(先ほどから目ざといのう。)これは、『個人文庫』といって、元特許庁長官が昭和34年の特許法改正に携つた際の法改正に関わる資料や、元職員のそれぞれが収集した産業財産権に関する資料が所蔵されてある。

「へ〜、いろんな資料もあつて面白いですね! 他にも何か発見があるかもしれないので、もう少し散策したいと思います。」

閉館時間は18時じゃから気を付けるのじゃぞ。ちなみに開館時間は9時30分じゃ。蔵書を探す際にはOPAC(オパック)を使うとよかろう。また、国立国会図書館の支部図書館にもなつてあるから、特許庁図書館を経由して国会図書館の資料の貸出もできるのじゃよ。えーそれから、いくら居心地が良いからと言って、閲覧室で居眠りしてはならぬぞ。コホンッ!

「(うとうと……ハッ!) も、もちろんです! しっかり勉強します!」

ふむ、大丈夫かのう? 良書に出会えるとよいの。ほっほっほ。

(文: 特技懇編集委員会)

